

JICAベトナム事務所 月報

第 185 号 (2025 年 10 月号)
2025 年 11 月 7 日発行

本月報に関するご意見・ご要望は
vt_oso_rep@jica.go.jp までお送り下さい

Website (日・越・英) :
<https://www.jica.go.jp/overseas/vietnam/index.html>

Facebook (越) :
<https://www.facebook.com/jicavietnam/>

発行 : JICA ベトナム事務所広報班

目次

- 台風・豪雨被害に対する緊急援助物資を供与 3
- ホーチミン市メトロ 1 号線を用いた鉄道学校教員向け研修の実施プログラムを実施 4
- ゲアン省ナゴイ村にて「農業機材譲渡式」を開催 5
- ベトナムの医療分野のデジタル化 – 日本での遠隔医療(Telehealth)に関する研修の実施 6
- ベトナム日本人材開発インスティチュート(VJCC)とトヨタ・モーター・ベトナム(TMV)がベトナム企業のサプライヤー育成にかかる協力の覚書を締結 7
- JICA 海外協力隊ベトナム派遣 30 年の記念に派遣中隊員が外務省次官を表敬訪問 8
- 日本モデルの「啓発型健診」をハイフォン市で実施 9

台風・豪雨被害に対する緊急援助物資を供与



引渡式に参加した日越代表者

9月中旬以降、ベトナム北中部は立て続けに襲来した台風(8号～11号)による甚大な被害を受けています。

ベトナム政府からの支援要請を受け、JICAは、農業環境省派遣の守安 JICA 専門家他と連携しながら、特に被害の大きかった地域の一つであるバクニン省に緊急援助物資を供与しました。

この緊急援助物資の中には、浄水器、毛布、プラスチックシート、ポリタンクなど、被災した方々に必要な物資が含まれています。

これらの物資は JICA の物資倉庫から空送され、他国からの支援物資よりも先にハノイ・ノイバイ国際空港に到着しました。2025年10月13日に開催された引渡式において、ベトナム農業環境省の堤防管理・防災局(VDDMA)が正式に物資を受領しました。これらの物資は VDDMA によって、速やかに被災者へ届けられました。

引き続き、JICA は困難な状況にあるベトナムの方々への協力へ尽力し、危機の時こそベトナムとの連帯と友情をより一層深めてまいります。

ホーチミン市メトロ 1 号線を用いた 鉄道学校教員向け研修

2025 年 10 月 6 日から 10 日まで、JICA は技術協力プロジェクト「鉄道学校における都市鉄道研修能力強化プロジェクト」の一環として、都市鉄道の運行・保守に関する研修プログラムを実施しました。

本研修は、東京メトロ・JR 東日本・日本コンサルタンツの専門家による協力のもとホーチミン市都市鉄道運営会社(HURC1)と連携して行われ、鉄道学校(VRC)の教員及び職員総勢 13 名が研修に参加しました。

この研修では、昨年 12 月に営業運転を開始したホーチミン市メトロ 1 号線が実際に用いられました。同路線は日本の技術を活用して建設されたベトナム初の地下鉄です。この路線は、ベトナム国鉄や他のメトロシステムとは異なる特徴を持っており、参加者は実際の運転現場を見学することで、理論と実務を結び付ける貴重な学びを得ました。

今回のプログラムを通じ、鉄道学校(VRC)の教員は運行や保守に関する最新の技術に直接触れ、そこで得た知見を今後の研修教材づくりや都市鉄道人材育成に活かすことが期待されています。

*「鉄道学校における都市鉄道研修能力強化プロジェクト」は、2022 年 2 月から 2026 年 1 月までの期間で実施中。ベトナム国内の都市鉄道人材育成機関である鉄道学校(VRC)の人材育成・運営能力の強化を通じて、都市鉄道システムの安全かつ効率的な運行に寄与するもの。



輸送指令訓練

ゲアン省ナゴイ村にて「農業機材譲渡式」を開催



ファーマーズ協同組合近藤隆理事長、ベトナム JICA 事務所小林 洋輔所長と
ゲアン省出身の元・技能実習生ら

2025年10月17日、ファーマーズ協同組合(所在地:香川県善通寺市)は、ゲアン省キーソン郡のナゴイ村において、ニンニク栽培に使用される灌漑設備、耕運機や種子保管設備など農業機材をベトナム側に譲渡しました。

この機材の譲渡は JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業にて実施中プロジェクトの一環として実施されたものです。

これら機材の導入により、十分な水源の確保、適切な耕起(畑を耕すこと)、適正な種子保管環境の確保などにつながり、高品質なニンニクの栽培に貢献することが期待されます。

譲渡式には、ゲアン省農業環境局をはじめとするプロジェクト実施ユニットに加え、ニンニク栽培に関心を持つ現地農家約 30 名が出席しました。参加者の中には、ファーマーズと委託栽培契約を締結する現地農家がでてきています。

なお、本プロジェクトには日本から帰国したゲアン省出身の元・技能実習生が現地栽培指導員として参画しています。このように、本プロジェクトを通じて、日本で活躍した外国人労働者が、日本で学んだ高い栽培技術と知識を母国に還元する事例も生まれています。

医療分野のデジタル化 – 日本での遠隔医療(Telehealth)に関する研修の実施



長崎県対馬病院での現場視察

技術協力プロジェクト「ベトナム遠隔技術を活用した医療人材能力向上体制強化プロジェクト」では、国立健康危機管理研究機構(JIHS)の協力のもと、2025年10月1日～9日に遠隔医療に関する研修を日本で実施し、ベトナム保健省各局、ラオカイ省保健局及び省総合病院からの職員・医師計8名が参加しました。

本研修では、医師間による遠隔医療(Doctor to Doctor: D-to-D)を中心に日本の遠隔医療にかかる政策、制度、取り組み及び課題について、厚生労働省、日本遠隔医療学会等の専門家からの講義及び長崎県対馬病院における現場視察を通じて遠隔医療への理解を深めました。

研修員代表の保健省医療サービス管理局ズオン・フィ・ルオン副局長は、研修成果と今後のJICAとの協力により、ベトナム国内での遠隔医療の実施に関する通達を2026年初頭を目標として整備する計画を述べました。あわせて、本プロジェクトの成功は、診療能力の向上及び都市部と僻地との医療連携の強化を通じて、全ベトナム国民へ質の高い医療へのアクセスの確保が実現されることが期待されました。

本研修は、遠隔医療にかかる知見の共有やベトナムと日本の国際協力関係を強化するための貴重な機会であり、JICAがベトナム医療のデジタル化を推進する重要な役割を果たしました。

ベトナム日本人材開発インスティチュート(VJCC)とトヨタ・モーター・ベトナム(TMV)がベトナム企業のサプライヤー育成にかかる協力の覚書を締結

10月23日、VJCCは、TMVとベトナムの裾野産業強化に向けサプライヤーを育成するための協力覚書を締結しました。

本協力では、VJCCのベトナム企業経営層向け研修「経営塾」で日本式経営を学んだ1,150名のうち、選抜された製造業の企業を対象に、約半年間現場のカイゼンを伴走支援します。また、研修終了後、候補となる企業はTMVとのビジネスマッチングも行います。

今回の取り組みは、2024年に開始した日越官民連携の枠組みである「新しい日越共同イニシアチブ」の一環として実現しました。

JICAは引き続き、ベトナムの裾野産業の育成と日本企業との連携を支援し、両国の成長に繋がる交流を促進してまいります。



MOU署名式の様子

JICA 海外協力隊ベトナム派遣 30 年の記念に 派遣中隊員が外務省次官を表敬訪問



ベトナム外務省グエン・ミン・ヴー次官と JICA 海外協力隊員による記念写真
(ベトナム外務省本庁舎前にて)写真:Trung Hieu

2025年10月29日、ベトナム外務省本庁舎にて、JICA 海外協力隊のベトナム派遣 30 周年を記念し、ベトナムに派遣中の隊員がベトナム外務省のグエン・ミン・ヴー次官を表敬訪問しました。

この訪問は、ベトナムと日本の協力の歩みを象徴するものであり、表敬訪問の場において、小林所長は、ベトナム政府、関係省庁及び隊員を受け入れている機関がプログラムの円滑な実施に尽力していることへの感謝を述べ、隊員が地域レベルでの経済・社会発展に貢献できるよう努めていることを強調しました。

隊員からは、代表 3 名(言語聴覚士、日本語教育、青少年活動)がそれぞれ活動紹介を行い、隊員が制作した派遣 30 周年記念動画を上映しました。

それに対し、グエン・ミン・ヴー次官は、2 年間の任期を通じてベトナムの国民と国のために尽力している JICA 海外協力隊に感謝の意を表すと共に、隊員が日本とベトナムの国民をつなぐ架け橋となり、両国の良好な協力関係をさらに深めることの期待が表明されました。

JICA は、ボランティア派遣を通じて、ベトナムの経済・社会発展を支援するだけでなく、両国間の友好協力関係と相互理解がさらに深まる 것을期待しています。

また、隊員が帰国後も、ベトナムでの生活・活動を通じて得た経験を活かしていくことを願っています。

日本モデルの「啓発型健診」をハイフォン市で実施

2025年10月22日、弘前大学とハイフォン市疾病管理センター(CDC)は、JICA 草の根技術協力事業「ハイフォン市における啓発型健診のための人材養成」の一環として、ハイフォン市医科大学の学生53名に対し、生活習慣の改善を目的とした啓発型健診(QOL 健診)を実施しました。

QOL 健診は、健診結果を即時に受け取れるほか、健康教育を通じて行動変容を促すもので、血糖値測定などベトナム独自の工夫も加えられました。結果は2~3時間後に判明し、将来の健康状態を予測することで生活習慣の見直しつながり、ハイフォン市保健局・CDC から「非常に有意義」と高く評価する声が聞かれました。

事業期間中には健診マニュアルの作成、市民向けセミナー、企業での健診などを通じて人材育成が進められ、これまでに6団体・347人に試験的に実施されています。事業終了後は CDC が自立的に健診を継続し、市民の健康意識向上と行動変容を促すことが期待されています。



ハイフォン市副局長 Thuc 氏及び事業実施団体による QOL 健診視察